

## インフルエンザ定点当たり報告数

インフルエンザは定点把握対象疾患であり、医療機関の中から選定し、協力していただいている定点医療機関からのみ患者数が報告 3 ならば、1 つの医療機関で 1 週間に 3 人のインフルエンザ患者を診療した、ということになります。

この数字が 1 以上であれば、その地域は流行レベルに入ったことになり、10 以上なら注意報レベル、30 以上なら警報レベルの流行となります。警報が解除されるのはこの数字が「10」を切ってからです。

○2019-2020 シーズンの全国の定点報告（国立感染症研究所調査）：

2019 年第 38 週（9/16-9/22）の定点当たり報告数が 1.16 となり、全国的な流行開始の指標である 1.00 を超えました。

2018 年は、第 49 週で定点当たり報告数が 1 を超えており、2019 年が例年より早く 1 を超えたことから、国立感染症研究所による報告が 38 週から開始されました。39 週以降 1 未満となり、42 週で 0.72 まで低下しましたが、43 週（10/21-10/27）0.8、44 週（10/28-11/3）0.95 と再度上昇してありました。45 週で流行開始の指標である 1.00 を上回りました。

2020 年第 5 週の定点当たり報告数は 14.11（患者報告数 70,076）となり、前週の定点当たり報告数 18.00 より減少しました。

都道府県別では高知県（21.23）、愛知県（19.76）、宮崎県（19.66）、長崎県（19.00）、佐賀県（18.41）、新潟県（18.28）、大分県（17.21）、愛媛県（17.02）、鹿児島県（16.91）、大阪府（16.88）、岡山県（16.86）、岩手県（16.80）、福岡県（16.18）、千葉県（15.98）、福島県（15.77）、群馬県（15.66）、兵庫県（15.64）、静岡県（15.59）の順となっています。

国内のインフルエンザウイルスの検出状況は、直近の 5 週間（2020 年第 1 週～2020 年第 5 週）では AH1pdm09（91%）、B 型（8%）、AH3 亜

型（2%）の順となっています。

詳細は国立感染症研究所ホームページ

(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/flu-map.html>) をご参照ください。

○2019-2020 シーズン 長崎市、長崎県の定点報告状況（長崎県感染症情報センター報告より）：

2020年第5週（1/27-2/2）のインフルエンザ報告は、長崎市（19.18）、長崎県（19）で、第4週（1/20-1/26）長崎市（28.35）、長崎県（28.59）と比較すると、長崎市、長崎県ともに減少しました。

いずれも流行レベルの指標1を超えておりました。50週以降の報告数が10以上（注意報レベルの流行）となっています。

長崎市は、40週、41週、42週と流行レベル（1以上）となりましたが、41週をピークに減少し、43週では1未満となりました。しかしながら、44週では、0.94と再度増加し、45週で1を超えました。

◎長崎県は、39週以降1未満となりましたが、長崎市が40-42週で1を超え、流行レベルとなりました。43週で1未満となりましたが、45週で1を超えました。さらに、50週以降で報告数が10以上（注意報レベルの流行）となりました。今後より注意が必要な状況になりました。

（長崎県感染症情報センターHPより抜粋、1部改変）

インフルエンザ等の感染予防のために、十分な休息、手洗い、うがい、マスクの着用等を心掛けてください。インフルエンザが疑われる症状として、のどの痛みや鼻汁・鼻づまり、発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛、全身のだるさ等がみられましたら、早めに医療機関を受診してください。